ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

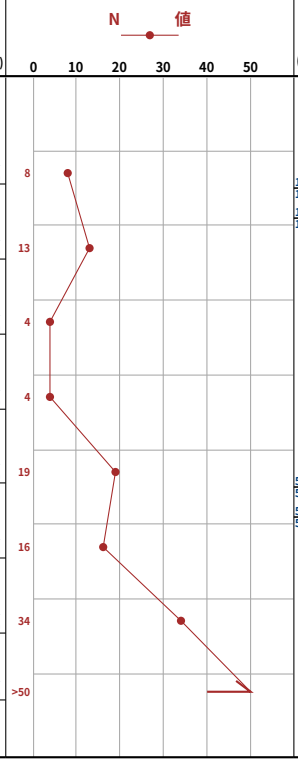
シートNO.

ボーリング名	B-2(測点No.63+50m左岸)	調査位置				北　緯	36 ° 28 ' 12.9300 "
発注機関	栃木県　宇都宮土木事務所			調査期間	2009-11-17 ～ 2009-11-19	東　経	139 ° 53 ' 35.9200 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	77.43 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘進長	8.00 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
					盛土・礫混りシルト (BS/M-G)	暗褐	中ぐらい		上部20cm間、植物根を多量に混入する。GL-1.5m付近までは礫混りシルトから成り、目視上の礫分含有率は30%前後である。以深はシルト質砂礫を主材料とする。礫はφ10～30mmを主体に最大φ50mmを点在する。マトリックスは中～粗砂分と多量のシルト分で埋められる。		
						暗灰			GL-2.6m付近より、やや有機質を帯びたシルトを優勢し、礫混りシルト材となる。礫分の主径はφ20～40mmで含有率は20%前後である。		11/18 4.55
	72.88	4.55	4.55		砂礫 (GS)	暗褐灰			礫はφ5～30mmを主体に最大φ50mm程を点在し、局所ではコア長3cm内外(推定φ80～100mm)の玉石分を混在する。GL-6.5～6.7m間、砂分の含有高く、礫混り砂状を呈す。マトリックスは中～粗砂分と細粒土分で構成される。GL-7m付近より、礫間への細粒土分含有を増す。		
							密な				
						暗茶褐	非常に密な				
	69.08	3.80	8.35								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	3	3	8／30	8
1.45					
2.15	5	4	4	13／30	13
2.45					
3.15	1	1	2	4／30	4
3.45					
4.15	1	1	2	4／30	4
4.45					
5.15	6	6	7	19／30	19
5.45					
6.15	5	6	5	16／30	16
6.45					
7.15	13	13	8	34／30	34
7.45					
8.15	20	30		50／20	>50
8.35					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
1.50	現場透水試験
1.50	現場透水試験
1.90	k=1.1×E-3
1.90	k=1.1×E-3
5.50	現場透水試験
5.50	現場透水試験
5.90	k=2.0×E-2
5.90	k=2.0×E-2

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1.50	B-2-1		土粒子の密度試験・土の含水比試験・土の粒度試験・土の湿潤密度試験	11/17
2.50				
5.00	B-2-2		土の含水比試験・土の粒度試験・土の湿潤密度試験	11/18
6.00				
				11/19